

Rudolf Steiner:

“Esoterische Betrachtungen
karmischer Zusammenhänge”, Band V, GA 239

Erkenntnis des Karmas und Impuls
für geistiges und religiöses Leben

最も重要な『カルマ論全集』

(日本では未訳の3巻～6巻)第5巻の邦訳。

人間が再びカルマに、

本当のカルマに帰っていく、

本当のカルマを生き尽くすための・・・

宇宙からの一条の光——カルマ認識の書

新刊書 2021年9月28日発行

A5版フランス装 本文112頁

ISBN978-4-903865-48-5

定価2420円(本体価格2200円+税)



ルドルフ・シュタイナー(1861-1925)の最晩年、1924年の活動は、81回にも及ぶ講演[カルマ的関連の秘教的考察]に止まらない。全焼したゲーテアヌム再建のために粘土模型を制作、当時としては画期的な鉄筋コンクリートの建築を試みている。また、音楽オイリュトミーのための講座をはじめとして、治療教育講座、言語オイリュトミー講座、農業講座など、さらにキリスト者共同体のためにも助言を惜しかなかった。

本書はドイツ語全集版(第5巻 GA239)に収められた、パリ講演(1924年5月23日～25日)の全訳である。

訳者 丹羽敏雄 Toshio Niwa

京都大学理学部において数学を専攻。大学時代、ゲーテに出会い大きな影響を受ける。30代半ばシュタイナーの人智学に出会う。

数学の研究・教育の傍ら、オイリュトミーに熱中。人智学をドイツ、イギリスなどで学ぶ。現在、ゲーテ・シュタイナー的学、パイオグラフィー・ワーク、占星学、カバラを研究。パイオグラフィーワーカーズ・ジュピター会員。理学博士、津田塾大学名誉教授。

関連著書に『やさしい占星術』、『星々と木々』、『シュタイナーの老年学』、『シュタイナーの青年学』、『百合と薔薇』、『沈黙のコスモロジー』他。訳書に『境界に立つ1・11』、『植物への新しいまなざし』、『エーテルと生命力』、『魂の救済』、『アントロポソフィーの礎』、『人間と大地における惑星の作用と生命プロセス』。

ルドルフ・シュタイナー講演集

[カルマ的関連の秘教的考察]



ルドルフ・シュタイナー

カルマ認識と 霊的・宗教的人生への衝動

パリにおける3回の講演(1924.5.23-25)

丹羽敏雄 訳・解説

人間は、誕生と死の間の地上生活と、
死と新しい誕生の間の天の生活からなる全人生を生きる、
それらから彼の人生の総体が構成されています。

人間の母を通して生まれる存在、
それは地球上で生じたものではないのです。
いわば舞台のみが地球上に生じたに過ぎません。
太陽生活における超感覚的な諸世界において形成された
1つの素晴らしい宇宙的造造物が、肉体的遺伝を通して
与えられるものの中に受肉するのです。

セラフィーム・ケルビーム・トローネの元で、
次の地上生において私たちのカルマの成就に成るものを、
私たちが人間として他の人々を通して体験することに成るものを・・・
私たちは超感覚的なやり方で体験しつつ見るのです。

●目次より

訳者による序文

I パリにおける3回の講演

第1講演、パリ、1924.5.23

イマジネーション・インスピレーション・インテュイションの認識段階の基盤に立ち、《死》・《地上生の消失》・《星々》の3つの相の元で考察された、死と新たな誕生の間の人生における人間の本性。人類の原教師たちとの出会い。シュトラダーの原像。コスモスにおける魂の自己外人生。新たな受肉のための最初の種子としての人生の逆方向の体験。他者に与えた痛みの体験。

第2講演、パリ、1924.5.24

治療の本性。水星天球の秘密。金星生活の領分。太陽人生。これらの天球における人間の中の悪の精算。

第3講演、パリ、1924.5.25

太陽領分のヒエラルキー。太陽領分におけるキリストの介入。火星存在・木星存在・土星存在への人間の魂の上昇。これらの領分における最高次のヒエラルキーの直観における新たな地上生のためのカルマの形成。3つの例で表されたこれらの3つの天球を通してのカルマの個々の刻印：ヴォルテール(火星)、ヴィクトル・ユゴー(土星)、エリファス・レヴィ(木星)。

II カルマ論を通して人生と人間の本質を探る

—惑星天球の秘密とヒエラルキー存在たち— (訳者による解説)